2022.07.21 18:00-19:00 第120回 未来医療セミナー

遺伝子治療の歴史と現状

谷　憲三朗

東京大学定量生命科学研究所
ALA先端医療学社会連携部門
特任教授

遺伝子治療臨床試験は、1989年に世界で初めて公的承認のもとに米国で実施され、現在までに3,000プロトコール以上が世界の公的機関で承認・実施されてきています。そして2022年4月時点で既に22種の遺伝子治療用製剤が医薬品として承認され（国立医薬品食品衛生研究所・遺伝子医薬部調べ）、ベッドサイドで使用されてきています。遺伝子治療はin vivo遺伝子治療（体内）法とex vivo遺伝子治療（体外）法に大きく分けられます。前者はベクターを介して治療用遺伝子を体内の臓器や腫瘍内に直接投与する方法であり、後者は自家もしくは同種等の組織や細胞を体外に取り出し、ベクターを介して治療用遺伝子を導入後、患者さんに投与する方法です。３０年に亘る慎重な遺伝子治療臨床試験の積み重ねの結果から、残念ながらいずれの方法を用いても治療用ベクターに由来する有害事象は未だ完全には回避されていない現状にあります。しかし一方で、遺伝子治療には「他に治療法のない患者さん」を対象に立案されてきた歴史があり、遺伝子治療により効果が得られ、生活の質が極めて向上した患者さんも多く認められはじめてきています。私たちもこれまでに他に治療法のないがん患者さんを対象に遺伝子治療法の開発研究を進めてきました。

本セミナーでは、遺伝子治療の歴史、現状と問題点、今後の展望について、私たちの研究を含めてご紹介させていただきます。

オンライン開催（事前登録制・参加費無料）

参加申込：下記のURLからお申込ください。2022年7月19日(火)締切
https://forms.office.com/r/Qu6M8uyHXZ

お問い合わせ
ACTjapan（未来医療センター内）
office@ima-mirai.or.jp
http://www.ima-mirai.or.jp/index.html

主催：一般社団法人 ACTjapan
共催：橋渡し研究戦略的推進プログラム
大阪大学「戦略的TR推進による自立循環型新規医療創出拠点の実現」
後援：大阪大学医学部附属病院未来医療センター